

肝がん予防 飲み薬で

C型肝炎は、感染したまま放置すると肝硬変や肝臓がんなど命にかかわる病気になるかねえませんが、現在は飲み薬だけでC型肝炎ウイルスを大幅に排除できるようになりました。新たな抗ウイルス剤の登場で患者負担も軽減された最新の治療技術について、県内の肝臓専門医の方々にうかがいました。

C型肝炎とは？

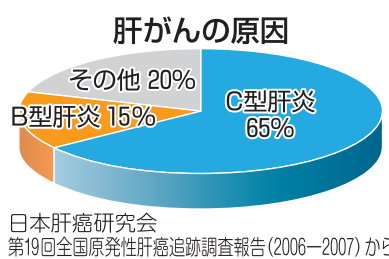
肝臓にウイルス感染

— C型肝炎とはどのような病気ですか。
— C型肝炎ウイルスが肝臓に感染することによって発症する病気です。ウイルスは血液を介して感染するため、輸血や消毒の不十分な注射器の使い回しなどが発症の主な原因となっています。現在は医療行為による感染はまれですが、ピアスや入

れ墨、違法薬物の注射などにより感染することがあります。C型肝炎ウイルスに感染しても、約30%の人は免疫の力で自然にウイルスが排除されますが、約70%の人が排除されず、そのまま放置すると肝細胞が破壊されまされず、そのまま放置すると肝臓がんになることがあります。また、肝臓がんの最も大きな原因はC型肝炎で、約60〜70%を占めます。



青森県立中央病院消化器内科部長 沼尾 宏氏



日本肝癌研究会 第19回全国原発性肝癌追跡調査報告(2006-2007)から

最新治療と助成制度

副作用大幅に減らす

— 肝炎の最新治療法や助成制度には、どのようなものがありますか。
— 遠藤 肝炎治療は、C型肝炎ウイルスを体内から排除することを目的として行われます。これまでは、インターフェロン注射による治療が主流でした。これは、体内の免疫力を高めてウイルスを排除するのですが、発熱や倦怠感、食欲不振などの副作用が多く見られました。「肝炎がうつらい」という声があったのは、この副作用を指しているのです。しかし、数年前に直接作用型抗ウイルス剤(DAA)が登場し、C型肝炎の治療が大きく進歩しました。現在では、

飲み薬を最短3カ月服用するだけで、95%以上の患者がウイルスを排除でき、倦怠感などの副作用を大幅に減らすことができました。

— C型肝炎の治療の目標は、肝関連疾患の進展抑制と肝臓がんの予防です。抗ウイルス剤による治療は、経口薬のみで副作用も少なく治療ができますが、ウイルスが体内から排除され血液検査の結果が陰性となっても「これで治った」と安心せず、継続して検査を受けることが大切です。C型肝炎の治療には医療費の助成制度もあり、収入に応じて月額1万〜2万円の自己負担で受診



うしお内科クリニック院長(八戸市) 牛尾 晶氏

早めの受診が重要

無料検査で症状把握

— 感染を確認するに、どんな方法がありますか。
— 感染を確認するには、どんな方法がありますか。厚生労働省の報告では、感染者の総数は100万〜150万人で、未治療の方が25万〜75万人程度と推定されています。本県の感染率は全国平均レベルですが、感染していても治療していない方が数千人以上いると考えられます。

県内の診療態勢

専門医が連携し対応

— 県内での治療の状況を教えてください。
— 青森市では、2カ所の肝疾患専門医療機関、7人の肝臓専門医が連携し治療に当たっています。県立中央病院でも定期的に肝臓病対策の教室を開き、肝炎の知識の普及に努めています。

津軽地方はC型肝炎ウイルスの感染率が高く、肝臓がんの患者も多い地域です。弘前大学医学部付属病院では、ウイルス検査で陽性反応が

出た場合、電子カルテ上でアラートが出る仕組みになっており、消化器内科へ紹介されます。当院は県の肝疾患拠点病院にも指定され、肝疾患相談センターを開設しています。県内の患者から電話と面談で年100件以上の相談を受けています。



弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学講座 講師 遠藤 哲氏

弘前市は、県内では肝炎に精通した医師が比較的多いのですが、肝臓がんが進行した状況で発見される場合もあります。治療と定期的な検査の相談を受けています。

— 専門医療機関に受診している肝炎患者は、総数の約30%と推定され、治療の必要な患者を適切に専門医に受診させる環境づくりが必要です。ウイルス性肝炎は無症状なので、早めに感染しているか確認すること、かかりつけ医の受診勧奨が大切であることなどを理解し、適切な医療を提供することが望まれます。

肝炎に関心ある方へ

地域の窓口へ相談を

— C型肝炎に関心を寄せつつも、治療をためらわれている方々へメッセージを。
— 遠藤 C型肝炎は、ほぼ全ての方がウイルスを排除できる時代になり、病気を根絶させることが世界的な目標になっています。40歳以上の方や感染が心配な方は、一生に一度で良いので肝炎ウイルス検査を受けてみましょう。

— 現在のC型肝炎

ひよっとすれば肝炎ウイルスに感染しているかも!?

- 以下の項目に当てはまる人は、一度検査を受けましょう。
- 40歳以上で、今まで一度もC型肝炎の検査を受けたことがない
 - 1992年以前に手術や出産などで輸血を受けた
 - 過去に大きな手術を受けた
 - 臓器移植を受けている
 - 血液透析を長期間にわたり受けている
 - 過去に血液凝固因子製剤の投与を受けたことがある
 - フィブリノゲン製剤の投与を受けたことがある
 - 薬物注射の濫用、入れ墨やボディピアスがある
 - 肝機能異常を指摘されたが、C型またはB型肝炎の検査を受けていない

●肝疾患の相談窓口●

肝炎治療に対する不安や疑問、肝炎の治療方法や診断方法、治療費や助成制度、肝炎の専門医療機関に関することなど、お気軽にご相談ください。

| 医療機関名 | 連絡先・受付時間 |
|----------------------------|--|
| 青森県肝疾患診療連携拠点病院・弘前大学医学部附属病院 | 〒036-8563 弘前市本町53 ☎0172-33-5111 (内線4020) |
| 肝疾患相談センター | 平日8:30~15:00受付 (平日12:00~13:00と土日・祝日、年末年始除く) |

※青森県のホームページ(<http://www.pref.aomori.lg.jp/>)でも詳しい内容が確認できます